

島の山古墳

しまのやまこふん

国の史跡でもある

全長200mの前方後円墳

島の山古墳は、奈良盆地の中央部寺川と飛鳥川とに挟まれた標高48メートルの微高地に立地しています。全長200メートル、周囲に濠を巡らした典型的な前方後円墳であり、奈良県下の前方後円墳約300基の中では19番目の規模に相当します。

築造されたのは、4世紀末から5世紀初めであったと推定されており、大王クラスの御陵等のいわれがありますが、まだ誰の墓か解っていません。

平成6年から本格的な発掘調査が実地され、前方部の埋葬施設から4世紀の遺物と考えられる車輪石・鋤形石・石釧の三種類約140点の石製腕飾類や碧玉製合子三点・玉製のネックレス三連・左右腕輪・銅鏡三点・小刀及び勾玉や白玉を中心とした玉類約1,300個が未盗掘の状態で出土しました。



約一五〇〇年前の大王が眠る

島の山古墳



粘土槨と石製腕飾類の出土状況

〔阿南辰秀 撮影〕



石 釧



車 輪 石



鋤 形 石

〔奈良県立橿原考古学研究所〕提供

瓜西町の豆知識

古墳石室の石が見られる比売久波神社

島の山古墳の周濠西側に接している場所に比売久波神社があります。この神社の本殿と拝殿の間にある平石は、島の山古墳から持ちだされたものといわれています。後円部頂上部の堅穴式石室に使用された天井石で、材質は竜山石(兵庫県高砂市及び加古川市でとれる石材名)です。神社については次ページにも掲載しています。

